





4366
22

すけろー



けまのあなをくはは
三才のふ月より五月まで
あまの原は素行上のまこと
うたはれ月日にきてはやく

よわくかへはは素行上の
のまをりしてつるうまを
あまを雲と世とより幻と
幻術まをふし幻術と
へんけそまをひひまうま

ついでに唐の玄宗皇帝は
道士幻術を好み揚子江に
くんとおぼしうな源氏唐の
とあはれての通さうもま
あひてよあつたよ

たどるはあま
ゆあまふ
あまふ
あまふ
あまふ

白文

はまといのろい雲流のま
名計りて何いし源氏これ
あまふれれわりのけいしん細
あて名とい白文の白書つ

花又草花のたより拍あふ
らん女三の文はくうひてあふ
かひー四のたのまうして
あま今草花をたてえ服
のまふまをよりまふその

子雲の述行中次ありし
之想して宿亦すてれ年純雜
乱りけり冬四帖皆亦有亦空
門のむねのたも終ふ弘乃
海はらるるをうらむと天公

の法文をそめけりうらむ
源氏四十八の年子とさし
あふりやらの

御分り

五
志ぬまゆそ
やまはるそ
いふーそ
しれーそ
おろる

